

毎年秋に、松田地区と寄地区で開催しています。

まつだハンター塾

解体体験会(寄地区のみ)



猟友会から指導を受けながら解体を行いました。

ハンターに興味がある方

狩猟免許を取得してから活動していない方や狩猟免許取得に興味がある方にわな猟の体験や解体体験会を行っています。

わな猟体験会

畑にくくりわなを設置し、シカやイノシシに見つからないように土や落ち葉でカモフラージュ



箱わなの設置について説明を受ける参加者



鳥獣被害って農家だけ関係するの？



有害鳥獣被害は、農家が受ける農作物被害だけではありません。松田町に毎年多く訪れるハイカーなどの観光客にも影響が及びます。

また、近年、県西地域ではヤマビルの被害が深刻化しています。このヤマビルを運んでいるのが、シカやイノシシなのです。ヤマビルに吸血されたシカやイノシシが活動範囲を広げることで、ヤマビルの生息域も拡大していきます。有害鳥獣の増加により、ヤマビルが増え、そして観光客の減少や地域経済の衰退にもつながるのです。有害鳥獣と聞くと、農業や林業のイメージが強いかもしれませんが、観光に及ぼす影響も大変深刻なものです。



吸血して大きくなったヤマビル。シカやイノシシの身体にくっついてその生息域を広げています。

どうしてシカやイノシシが増えてしまったの？



シカやイノシシが増えた理由の一つに、ハンターの減少があげられます。狩猟免許所持者の数は、全国で約52万人(1975年)から約21万人(2017年)まで減少しています。また、高齢化が進み2017年度では、60歳以上の方が6割を超えています(環境省公式サイトより)。

そのほかにも、中山間地域の過疎化などによる耕作放棄地の拡大があげられます。耕作放棄地は、シカやイノシシの格好の隠れ家になるほか、管理されていない農作物を工サとしていきます。シカやイノシシの活動範囲が広がり、人間との距離が近くなることで人なれが進み、農作物被害は拡大していきます。